

I	<b>確認</b>	<b>患者にデバイスが挿入されているか</b>	シフトごとに PICC の挿入の有無を評価し記録する（接続時 / 接続解除時） 病院の方針に従って腕周囲と目視可能なカテーテル長を評価する コネクターとラインを評価し、コネクター / ラインに血液がないことを確認する
D	<b>必要性</b>	<b>患者はこのデバイスを必要としているか</b>	PICC が挿入された理由は？その適応はまだあるか？ その適応に対してより安全な血管アクセスデバイスは利用可能か？ PICC を抜去し、より侵襲性の低いデバイスに交換できるか？
E	<b>機能</b>	<b>滴下・フラッシュ・血液の逆流は良好か</b>	PICC の各ルーメンは血液吸引、フラッシュや投与が容易にできるか？
C	<b>合併症 または 懸念事項</b>	患者は挿入部位またはカテーテルに沿って発赤、腫脹、分泌物、硬結、触知可能な索状物、または疼痛があるか？ 前回記録時より患者の腕周囲が大きくなっている、または露出 / 可視カテーテル長が増加しているか？ PICC 挿入部位または四肢に合併症や懸念事項が認められる場合は、治療チームに相談する	
I	<b>感染予防と 認識</b>	無菌非接触テクニックを使用する PICC を操作する前に手指衛生を行う 接続前にハブを消毒薬で 15 秒間擦り、乾燥させる 患者に感染の兆候 / 症状または挿入部位からの膿性排液があるか？	
D	<b>ドレッシング と 固定</b>	ドレッシングは清潔で乾燥し、きちんと貼れているか？ ドレッシングが湿っている、緩んでいる、または目に見える汚れがある場合は交換する PICC と接続された IV ラインは適切に固定されているか？ 適切なカテーテル固定デバイスが使用されているか？ 必要に応じて適切に固定する	
E	<b>評価と 教育</b>	PICC ラインの必要性と治療に関連するリスクについての患者 / 家族の理解度を評価する そして教育を行う	
D	<b>記録</b>	評価結果と教育内容を記録する 必要に応じて評価と推奨事項を治療チームと話し合う	

### 治療チームとの協力による決定と行動

- PICC の使用と再評価を継続
- PICC の使用を継続 - ドレッシング交換および / または固定の追加
- PICC の使用を継続 - カテーテル閉塞に対する介入
- ルーメン数を減らすために PICC を交換
- PICC を抜去し、他の血管アクセスデバイス \_\_\_\_\_ に交換
- PICC 抜去